

雜 報

會 員 動 靜

	正七位勳六等	伊 藤 不 羈 夫 (一月二十七日)
叙勳五等授瑞寶章		
叙從五位	正六位勳五等	野 瀬 量 弘
叙從五位	正六位勳五等	木 村 茂 樹 (一月十九日)
	衛生技師	上 田 長 藏 (一月三十日)
願ニ依リ本職ヲ免ス		
	陸軍三等軍醫正正六位勳五等	野 瀬 量 弘
	陸軍三等軍醫正正六位勳五等	木 村 茂 樹 (一月十九日)
特旨ヲ以テ位一級被進		
	陸軍運輸部附陸軍二等軍醫	後 藤 英 明 (二月六日)
免本職補廣島衛戍病院附兼陸軍運輸部附		
	從五位勳三等功五級	砂 堀 雅 人
	從五位	安 藤 晝 一
	從五位勳六等	赤 岩 八 郎 (十二月二十七日)
叙正五位		

- 小坂次郎君 は先般岡山醫科大學副手を囑託せられ産科婦人科教室勤務を命せられたり
- 山田金吾君 は岡山醫科大學副手を囑託せられ眼科教室勤務を命せられたり
- 藏本常雄君 は豫て朝鮮總督府醫院並に京城醫學專門學校に勤務し居られしが今般滿鐵大連醫院産婦人科に轉勤せられたり
- 光井貞八君 は今般九龜市富屋町回生堂病院に轉勤せられたり
- 藤原角一君 は今般本縣都窪郡早島町倉敷紡績會社早島分院に轉勤せられたり
- 樋口敏雄君 は豫て岡山醫科大學附屬醫院耳鼻咽喉科教室に勤務し居られし

が今般淡路國洲本町洲本病院に轉勤せられたり

○丸岡眞義君 は先般日本生命保險會社九州支店長に榮任せられ福岡市橋口町同社九州支店に轉居せられたり

○宗野正君 は今般尼ヶ崎市宮町に於て開業せられたり

○鄭錫鎔君 は先般南滿洲昌圖驛前に於て開業せられたり

○増野純亮君 昨年十月無事歐洲より歸朝せられたる同君は今回岡山醫大第二内科教室勤務を辭し山口縣萩町下五間町に於て開業せられたり

久保銀松君逝く 君は大正十年岡山醫學專門學校を卒業し郷里高知縣吾川郡長濱村に於て開業し居られしが本月九日病を以て遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へざるなり

●明治二十四年卒業生記念會 去る明治二十四年第三高等中學校醫學部を卒業せし者相謀りて第三十五週年記念會を大正十四年一月二日午後四時を期して岡山驛前三好野花壇に開く此日會する者疋田直太郎、前田棄次郎、駒井潔、三並知夫、永井政忠、中野碩六氏と余を併せて七人なり、余諸氏を代表して坂田先生を訪ひ請待す午後五時相議して翌三日の事程を定む第四十週年記念會には前例の行事を終りたる後直ちに相携へて數日旅行すること尙ほ此期に先立ち臨時一會を催すことに決定し其施行の用務を擧げて三並知夫、永井政忠二氏に一任す三日午前九時自動車を驅り先づ母校を訪ひ菅、筒井兩先生の銅像を禮拜し次で藤田大學長を門田屋敷に訪問し更に轉じて東山に登り菅先生の墓に詣で香華を供へ敬弔と謝恩の赤誠を致す午前十時三十分國清禪寺に於て華山海應禪師に請ひ莊嚴なる法要を修し左の弔辭を捧讀せり

大正十四年一月三日備前國岡山市小橋町國清禪寺ニ於テ浮屠氏ヲ請ヒテ經ヲ誦シ香ヲ焚キ先師亡友ヲ追悼シ奉ル

此日會スル者無慮七名顧ミルニ吾曹往キニ相謀リ五箇年毎ニ同時ニ卒業ノ者會合ス可キヲ以テス今歳ハ實ニ其期ニ相當シ吾曹ガ第三高等中學校ニ業ヲ卒ヘシヨリ三十有五年ヲ經タリ矣東西相距リ南北相隔テ數十百里ヲ遠シトセズ黒頭白頭一堂ノ上ニ相對シ舊ニ溯リ新ヲ追ヒ遭遇ノ難易命運ノ正奇功業ノ遂否ヲ論ズ一壑其一笑誠ニ人世ノ至樂ヲ極ムルモノアリト雖モ事ノ先師亡友ニ

至ルヤ感愴衷心ヨリシテ至リ暗然默禱曷ゾ禁ゼン

嗚呼先師粹然タル温容嚴乎タル態度深遠ナル學術該博ナル智識ヲ以テ誠實ニ熱烈ニ教授薰陶ノ勞ヲ執レコト幾年月ノ長キニ及ビ今日道山ニ歸セラル者十有三人亡友モ亦十有五人ニ達ス命ノ窮達、功ノ大小、志願ノ通塞、家道ノ泰否、兒孫ノ興衰ニ至リテハ喜慶祝福ス可キ者尠カラズト雖モ悲酸痛悼容易ニ口ス可ラザルモノ多々存ス亡友ノ心蹟モ亦然リ哀哉然レドモ照著シテ息マザルモノハ天ノ天タル所以也照著シテ動カザル者ハ地ノ地タル所以ニシテ天地ハ天地タルノ理ヲ全ウセルニ觀レバ吾人人類ガ文化ノ進退ニ世相ノ推移ニ今昔ノ轉變ニ上下流轉スルモ何ゾ深ク痛ムニ足ラン哉尙クハ享ケヨ

同級生記念會幹事 大林森次郎

國清寺を出でて後、後樂園を遊覽し上之町「カフェー・ブラジル」階上に於て晝食す

午後三時坂田先生、藤田大學長の駕を迎へ先づ撮影を爲す次で中野幹事の挨拶ありて宴を開く會する者必ずしも多からず宴たるや質實を旨とせり然れども兩先生の貴臨せらるるありて杯酒談笑肝膽傾吐高興永く誼る可からざるものあり殊に坂田先生は去る一日宿痾たる喘息の發作せる爲に疲勞の太甚しきにも拘はらず高駕を枉げ巨筆を揮ひ吾儕の招待懇請を果さる先生の厚誼同人の均しく銘記する所感謝曷ぞ禁せん感謝曷ぞ禁せん（大林森次郎誌）

●明治三十八、三十九年卒業生聯合懇親會 本月七日第三十六回岡山醫學會總會の第一日とし午後六時市内新西大寺町新花月に於て明治三十八年及び同三十九年岡山醫專卒業生聯合懇親會を開催す此日天氣晴朗にして風寒く好適の懇談會日なり分袂後二十年思ひ出多き會合とて東は近畿地方西は吳廣島又海を隔てて四國方面より來會者あり舊き師弟の會合のこととて膝を交へて歡談盡きず適切なる若返り法を體驗したる感あり、かくて十一時過ぐる頃惜しき解散をなす、蓋し近來の盛會なりき。

當日の出席者氏名左の如し

藤田 學長	田中 院長			
上坂 熊勝	藤原 鐵太郎	麻植 巨一	陶山 鑽治	加藤 誠治
八木田九一	池上 馨一	の諸先生		
笹原 信太郎	奥村 左吉	松田 金十郎	村上 奎二	吉田 信次の

事務員諸氏（以上來賓）

小野寺芳三郎	魚角量吉	平位節藏	内山健吉	奥宮松枝
上田敬治	生島質	安達唯一	大田原英一	松浦輔彦
町田弘一	小倉一郎	坪井喜寛	松本眞治	高田武三
田丸要植	(以上會員)			

追録 二月七日の三十八，九同期生懇親會に於て恩師の方々並に其他の諸先生にも親しく御目に掛り誠に久方振りの會合にて實に心中言ひ知れぬ愉快を覚えたりき，茲に發起者諸君の種々斡旋の勞を謝す。猶ほ諸君に於て次回の開催期及び場所を一考し置かれたし

(今同の行に加古川の奥君から)

鶯や隣まで来て歸りけり

春や淺し梅に宿らず飛ぶ小鳥 (同返し)

(出席者の一人)